

## 〈中学校社会部会〉

### 研究主題

「個に応じた補足的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れた指導方法の工夫・改善」  
—— 発展的な学習の指導を中心にして ——

### 研究の概要

平成13年度から15年度は「指導と評価」に関する研究を行った。平成13年度は「評価規準の設定」「評価方法」「総括の仕方」等の研究開発を行い、平成14年度は「指導を要する状況の明確化」と「ワークシートを活用した4観点におけるつまずきの評価とその対応」を明らかにした。平成15年度は、観点別学習状況の評価を生かした補足的な指導や発展的な指導など、さらなる個に応じた学習指導法の開発を行った。しかしながら、発展的な学習の指導の在り方や教材開発については、課題が残った。

今年度は、過去3年間の研究を基に、補足的な学習や発展的な学習の指導を行う場面を設定した単元の学習過程を工夫し、指導の在り方の研究開発を行うとともに、特に、生徒の実態に照らし合わせた発展的な学習の指導を行うための教材開発を行った。

### I 研究の目的

社会科の学習指導において、指導と評価の一体化を図るとともに、補足的な学習や発展的な学習のとらえ方を明らかにし、一人一人の学習状況に適した個に応じた学習指導の充実に取り組む。

### II 研究の方法

- 社会科における補足的な学習や発展的な学習のとらえ方の明確化
- 補足的な学習や発展的な学習の指導を行う場面を設定した単元の学習過程の工夫と指導の在り方の研究開発
- 発展的な学習の指導を行うための教材開発

### III 研究の内容

#### 1 社会科における補足的な学習、発展的な学習のとらえ方

補足的な学習とは、「生徒の理解や習熟の状況等に応じ、学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るために行う学習指導」であり、発展的な学習とは、「学習指導要領に示す内容を身に付けている生徒に対して、学習指導要領に示す内容の理解をより深める学習を行ったり、さらに進んだ内容についての学習を行ったりするなどの学習指導」である。（「個に応じた指導に関する指導資料」文部科学省 平成14年9月 より）

また、学習指導要領の総則では、「学校において特に必要がある場合には、第2章以下に示していない内容を加えて指導することができる。・・・これらの場合には、第2章以下に示す各教科、道徳、特別活動及び各学年、各分野又は各言語の目標や内容の趣旨を逸脱したり、生徒の負担過重となったりすることのないようにしなければならない。」と、発展的な学習の指導の配慮事項が示されている。そこで、開発委員会では、社会科における発展的な学習を次のようにとらえた。

発展的な学習とは、

- ①学習指導要領に示す基礎・基本を身に付けていると判断される生徒に対して行う学習
- ②単元の学習を通して身に付けた基礎・基本を応用・発展させていく学習
- ③単元の学習で扱った社会的事象以外の社会的事象や、より高度な思考・判断、理解等を要する事象について課題を設定し追究する学習（学習する社会的事象を広げる、深める）
- ④単元の学習で扱った課題解決の視点や方法以外の視点・方法や、より多様な複数の視点・方法で、課題をさらに多面的・多角的に追究し、理解を深める学習  
（課題解決の視点や方法を広げる、深める）
- ⑤単元の学習において扱ったまとめや発表の方法以外の方法や、より多様な複数の方法を活用して、分かったことなどを関係図や構造図等にまとめたり、発表したりする学習

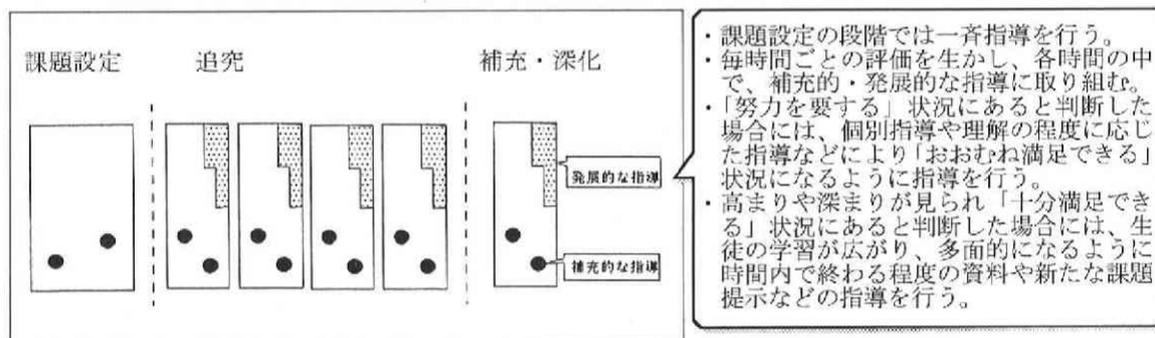
配慮事項

- ・発展的な学習の指導を行うに当たっては、生徒の負担増にならないようにする。
- ・各学年の目標や内容の趣旨を踏まえることなどへの配慮が必要である。
- ・生徒の実態や学校がある地域の実態などによって、上記以外の例も考えられる。

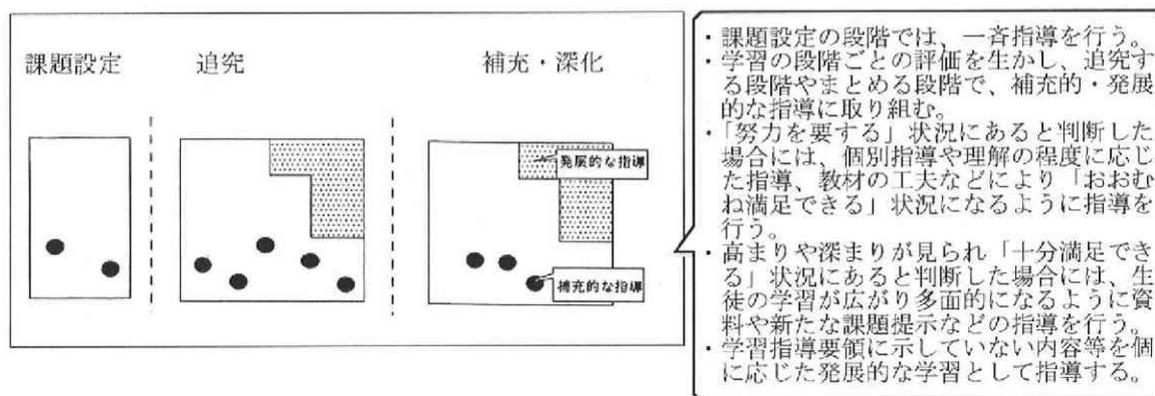
## 2 補充的な学習や発展的な学習の指導の手だてが設定されている学習過程の例

下の(1)、(2)は、単元の学習過程において、補充的な学習や発展的な学習の指導を設定した学習過程の一例である。取り上げる教材・生徒の実態・学校がある地域の実態などによって、これ以外の例も考えられる。

### (1) 毎時間、補充的な学習や発展的な学習の指導が設定されている例



### (2) 学習の段階ごとや単元のまとめに補充的な学習や発展的な学習の指導が設定されている例



### 3 指導事例

**指導事例 1** 地理的分野「日本の地域構成」の学習において、毎時間、補充的な学習や発展的な学習の指導を行う場面を設定し、個に応じた指導を行った例

- 1 単元名 地理的分野 「日本の地域構成」
- 2 小単元名 「日本の位置と領域」「都道府県の構成と地域区分」

#### 3 指導計画・評価計画（6時間）

時間	学習活動	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・ 判断	資料活用の 技能・表現	社会的事象につい ての知識・理解	発展的な指導(A)	補充的な指導(C)
1	地球儀や地図を活用し、日本の位置を世界的な視野から調べる。世界的な視野から見て、日本の位置の特色を確認する。			ワークシート	白地図	・東京と同じ緯度の都市を二つ以上調べ、東京と比較しての地形的な特色を、地球儀を用いて発見する。 ・地図帳の世界の一般図より、日本が描かれているページをすべて調べ、日本の位置を知る。	・一緒に地球儀を見て、日本の位置を確認する。
2	地図を適切に活用して、日本の領域の特色を調べ、領域をめぐる問題に気付かせる。	観察	ワークシート			・提示した参考資料を基に、さらに興味をもった領域に関する課題を考える。 ・提示した参考資料を基に、領域に関わる経済水域の重要性を考える。	・日本の領域、東西南北の端にある島を一緒に地図で確認する。
3	地図を適切に活用して、都道府県の位置と名称を基に七地方区分を理解する。	観察			白地図 小テスト	・さらに興味をもった都府県に隣接する都府県の数・名称・位置・県境を調べてみる。	・都道府県や七地方区分の位置と名称を繰り返し白地図で確認させる。
4	地図を適切に活用して、都道府県の位置と名称を基に、県境・面積・県庁所在地を理解する。		ワークシート		白地図	・自分の住んでいる区市と、幾つかの政令指定都市との面積・人口・人口密度の比較を行ってみる。	・都道府県と県庁所在地名の位置と名称を白地図やクイズなどで工夫して、繰り返し確認する。
5	地図を適切に活用して、都道府県の位置と名称を基に、多様な地域構成となっていることに気付かせる。		ワークシート		白地図	・本時では取り上げない地域区分の中から、さらに興味をもった地域区分について調べてみる。	・身近な地域から、規模によって多様な地域があることを理解させる。
6	日本の略地図を描く。			ワークシート 白地図		・日本の東西南北の端の位置、及び東アジアを含む地域の略地図を描く。日本と同緯度・同経度の国も確認する。	・点線で描かれた略地図をなぞり、大まかに本州・北海道・九州・四国の位置関係を確認する。

**指導事例 2** 地理的分野「地域の規模に応じた調査」の学習において、学習の段階ごとに補充的な学習や発展的な学習の指導を行う場面を設定し、個に応じた指導を行った例

- 1 単元名 地理的分野 地域の規模に応じた調査「世界の国々」
- 2 小単元名 「中国」

#### 3 単元の評価規準

ア 社会的事象への 関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断	ウ 資料活用の技能・表現	エ 社会的事象についての 知識・理解
・世界の国々に対する関心を高め、その調査に意欲的に取り組み、世界の国々の地域的特色をとらえようと	・世界の国々の地理的事象から課題を見だし、それを環境条件や人々の営みなどと関連付けて多面的に追	・世界の国々に関する地図や統計その他の資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用すると	・世界の国々の地域的特色とともに、国家規模の地域的特色をとらえる視点や方法などを理解し、

している。	究するとともに、国家規模の地域的特色をとらえる視点や方法を考察している。	もに、世界の国々の地域的特色を追究し考察した過程や結果をまとめたり、発表したりしている。	それらの知識を身に付けている。
-------	--------------------------------------	--	-----------------

#### 4 小単元の評価規準

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断	ウ 資料活用の技能・表現	エ 社会的事象についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の国々の地理的事象に対する関心が高まっている。</li> <li>世界の国々に関する地図や統計、その他の資料を用いた調査に、意欲的に取り組んでいる。</li> <li>世界の国々の地理的事象から見いだした課題を基に、世界の国々の地域的特色をとらえようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の国々の諸事象を位置や空間的な広がりとかかわり度とらえ、地理的事象として見いだしている。</li> <li>世界の国々の地理的事象を基にして、適切な課題を設定している。</li> <li>世界の国々の地理的事象を基にして設定した課題を、地域と環境条件や他地域との結びつきなど人間営みとのかかわりに着目して、多面的多角的に考察している。</li> <li>国家規模の地域的特色をとらえる課題を追究するための視点や方法を考察し、適切に選択している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の国々に関する地図や国家単位の統計、その他の資料を収集している。</li> <li>世界の国々の地域的特色をとらえるために、地図の読み取り、統計のグラフ化や地図化などを通して、学習に役立つ情報を適切に選択して活用している。</li> <li>世界の国々の地域的特色を追究し、考察した過程や結果を地図化したり、報告書などにまとめたり、発表したりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の環境条件や他地域との結びつきなど人間の営みとの関わりに着目してとらえた世界の国々の地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。</li> <li>国家規模の地域的特色を地図や統計、その他の資料を用いてとらえる視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法を理解し、その知識を身に付けている。</li> </ul>

#### 5 小単元の具体的な評価規準

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断	ウ 資料活用の技能・表現	エ 社会的事象についての知識・理解
①アテネオリンピックのメダル数の統計資料を進んで処理しようとしている。	①アテネオリンピックのメダル数の統計資料から、適切に考察している。	①アテネオリンピックのメダル数の統計資料を、白地図に工夫して描いている。	①面積の大きな国、人口の多い国について理解している。
②中国の都市や世界遺産を進んで調べている。	②中国の地域区分それぞれの特色について適切にまとめている。	②中国の地域的特色を工夫して描いている。	②中国の地名、都市名などを理解している。
③アメリカの貿易について進んでまとめている。	③アメリカの貿易の特色を、適切に考察している。 ④アメリカの国際的な影響力について、多面的に考察している。 ⑤アメリカの貿易についての発表を聞き、適切に内容をとらえている。	③アメリカと経済的な結びつきの強い国について、工夫して地図に表している。	③アメリカの農業地域や工業都市について、理解している。

#### 6 小単元の指導計画・評価計画（13時間）

学習過程	学習活動	ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断	ウ 資料活用の技能・表現	エ 社会的事象についての知識・理解	評価に基づく手だて ○：発展的な指導（A） △：補充的な指導（C）
1・2・3 導入	アテネオリンピックメダル獲得数の一覧表から、一部を抜粋して表を作成し、世界地図に描く。 面積の大きな国と人口の多い国を調べる。	①表・白地図	①考察の内容	①表・白地図	①ワークシート	△メダル獲得数の資料から、別の表を作り、地図に表すよう助言する。 △地図帳の資料を一緒に見て確認する。
4 課題設定 5・6 追究	旅行パンフレットなどを参考に、インターネットで中国の都市や世界遺産などを調べる。 興味のある都市や文化遺産を5～10選ぶ。 地図帳を参考に、さまざまな主題図に、選んだ都市を当てはめて地域の特色を調べる。 ・透明シートに位置を書き写し、地図帳の主題図に重ねて、地域の特色を調べ、一覧表に書き出す。	②観察・白地図				△地図帳を一緒に見ながら、透明シートに位置を書き写させる。
7 追究 8 補充・深化・発展 本時	自然環境と人々の生活を関連させて、地域の特色をとらえる。 3～5つの地域に区分し地域ごとの特色を、白地図に簡条書きする。  地域の特色を地図に書き込む。		②ワークシート	②ワークシート	②ワークシート	△降水量と農業区分の関連に注目して地域区分するように助言する。 ○中国の地域による特色の違いを、地形的な要素も考察に加えて文章にまとめる。 ○中国の主な貿易相手国を、統計資料を参考に、白地図

9	課題設定・追究	いろいろな品目についての生産や貿易の統計を見て、アメリカの特色を考える。 生産量と輸出入額を比較して、一覧表にまとめる。					にまとめる。 △一緒に統計資料を見ながら、アメリカの特色を考えてみる。
10	追究・補充・深化・発展	主な国の貿易（輸出・輸入）相手国の統計から、アメリカの特色を浮かび上がらせる。アメリカとの貿易が盛んな国の分布の様子を調べる。 主な国の貿易相手国の統計資料から、アメリカとの関係が深い国々を白地図に書き表し、関係の深い国々の分布の特色を考察する。 ・レポートにまとめる。	③ 観察	④ レポート	③ 地図	③ ワークシート	△主な国の貿易相手国を再度確認させ、アメリカとの関わりに気付かせる。
11		アメリカの影響の強い地域の共通性を考察し、まとめる。 ・国際社会におけるアメリカの影響の大きさについて考察し、レポートにまとめる。					
12		アメリカ国内の農業や工業の盛んな地域について、地図帳で調べ、まとめる。 ・主な農作物や、工業の盛んな地域についてまとめたワークシートを記入する。					△一緒に資料を見ながら、アメリカ国内の地域的特色を略図に描くよう助言する。 ○EU諸国の貿易相手国について、アメリカと比較して違いを明確にする。 △重要な点を全体で押さえ、メモを取らせる。
13	まとめ	学級で10名程度発表する。 ・アメリカの貿易に関する発表を聞き、理解を深める。		⑤ 聞き取りメモ			

7 本時の学習活動の記録

	学習内容	学習活動	評価の観点・方法	留意事項
導入	(前時) 1. 都市の特色を表に書き出す。	・選んだ都市や世界遺産の所在地が、どのような地域なのかを地図帳の主題図で調べ、表にまとめる。 ・自然環境 「位置」「気温と降水量」 ・生活 「人口密度」「民族」「家庭料理」 ・産業や経済「農業(小麦と米)」		・記入例をあげて説明する。 ・すべての項目についての記入ではなく、特徴的な項目から記入させる。
展開	2. 地域を区分する。主な特色を一つ選び、それと関連すると思われる特色を見つける。 3. ワークシートに境界線と、地域ごとの特色を記入する。	・ワークシートの白地図に、調べた都市の位置を記入する。 ・地域区分の中心にする主題を一つ設定し、境界線を1～2本、透明シートに描く。 ・白地図に下書きする。 ・他の主題図に、その透明シートを重ね合わせ、関連性を見る。 ・必要に応じて境界線を、1～2本追加する。 ・白地図に下書きする。 ・下書きを見せてから、清書に入る。 ・区分した地域ごとの特色を余白に書き込む。	ウの② ワークシートの白地図  イの② ワークシートの記述	・おおよその位置に「・」を記させる。 ・境界のはっきりした主題を選ばせる。 ・書き損じた生徒には追加してシートを配る。 ・おおよその線で区分させる。
発展	「おおむね満足できる」状況(B)と判断した生徒のうち、特に作業が速く終わった生徒に取り組ませる。 「発展的な学習の課題1」 ※地域ごとの特色を、地形的な要素も考察に加えて、中国全体の地域による変化を文章にまとめる。 「発展的な学習の課題2」 ※中国の主な貿易相手国を、統計資料を参考に、白地図にまとめる。	・記入が済んだら「発展的な学習の課題1」の説明を受け、作業する。 ・OHPシートをワークシートに貼り、主な山脈や砂漠などを描く。 ・地形的な違いについても、重ねた透明シートを使って、考察に加える。 ・簡条書きにし、地域ごとに書き込んだ特色をまとめて、中国全体の地域による違いを文章にまとめる。 ・「発展的な学習の課題1」が終わったら、「発展的な学習の課題2」の資料を受け取り、作業する。 ・統計資料(主な国の輸出入品目及び相手国) ・世界地図(白地図) ・中国との貿易が盛んな国を、輸出・輸入に分けて書き出す。 ・世界地図に輸出・輸入を色分けなどして描く。 ・それらの国々の分布の様子を考察し特徴をまとめる。	ア『発展』 (新たな課題に取り組もうとする態度)	・作業が速く終わった生徒を対象としており、全員を対象としたものではない。生徒の負担過重とならないように気を付ける。  ・「発展的な学習の課題2」の白地図は、回収はしないが、次の学習に直結する内容なので、家庭での学習をすすめる。 ・「発展的な学習の課題2」の白地図は、授業の最後に、全員に資料として配布しておく。

まとめ	4. 自己評価、回収	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価ラベルを貼り、自己評価を記入し、ワークシートを提出する。</li> <li>「評価の項目」技能・表現、思考・判断</li> <li>「評価の規準」 <ul style="list-style-type: none"> <li>○広大な中国を、いくつかの地域に区分している。</li> <li>○地域ごとの特色を書いている。</li> </ul> </li> <li>「自己評価の基準」 <ul style="list-style-type: none"> <li>A：上手くできた、できそう</li> <li>B：何とかできた、できそう</li> <li>C：できない</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価の説明をする。</li> </ul>
	5. 次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカの学習予定を知る。</li> </ul>	

## 8 本時（第7時）における評価と具体的な手だて

(1) 本時において「努力を要する」状況（C）と判断した生徒への具体的な手だて

【イの②、ウの②】いくつかの主題図に共通する境界線を引くという課題にもかかわらず、単に降水量の図だけを見て区分している。



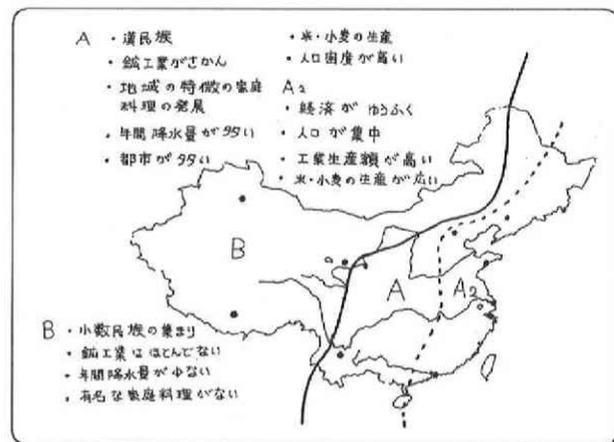
具体的な手だて

●降水量と農業区分の関連に注目して地域区分をするように助言する。

アドバイスをもとに、再度、取り組ませる。

(2) 本時において「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒（Sさん）の具体例

【イの②、ウの②】いくつかの主題図に共通する境界線を引き、三つ程度の地域に区分し、地域ごとに特色を簡条書きしてある。



(B)と判断した生徒のうち、作業が大変速く、かつ適切に行うことができた生徒へは、「発展的な学習の課題1」へ進むよう指示をする。

「発展的な学習の課題1」へ進む。

### ■「おおむね満足できる」状況（B）と判断する具体的な評価規準の例

地域ごとに簡条書きにした特色に、地形的な要素からの考察も加えながら、中国全体の地域による違いを文章にまとめている。

### ■「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒（Sさん、Aさん）の文章の例

Sさんの文章

●中国の9割以上が漢民族で、漢民族の住んでいる地域では、人口密度が高いことがわかった。鉄工業の生産額も高いことがわかった。その中でも、最も高い地域がA<sub>2</sub>の地域。A<sub>2</sub>の地域は、山や砂漠がなく、降水量が多いので、農業（小麦・米）がしやすい。そして、海に面しているの、国際交流（輸入や輸出）が可能だから、鉄工業がさかんになるのだと思った。農業・鉄工業がさかんになるということは、人が必要となるので、人口密度が高くなるのだと思った。

Aさんの文章

●人口密度に差があるのは、米・小麦の生産や、工業生産額に比例していることが分かります。人口密度が多い地域の米・小麦の生産額は、とても多いです。工業生産額も5兆円くらいです。逆に、人口が少ない地域は、農業・工業両方とも、少ないです。土地が、山脈・高原などで、とても農業や工業に適しているとは思えないところなので、生産額に差があるのだと思います。人間が住むのには厳しい条件の土地なので、人口が少ないのだと分かりました。中国にヒマラヤ山脈があるのを初めて知りました。海に面している地域の方が、食糧も豊富だから人口が多いのかな、と思いました。

**指導事例3** 歴史的分野「中世の日本」の単元のまとめの段階の補充・深化の学習において、補充的な学習や発展的な学習の指導を行う場面を設定し、個に応じた指導を行った例

1 単元名 歴史的分野「中世の日本」

2 単元の目標

ア 武士が台頭し武家政権が成立したこととその後の武家社会の展開を、鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、応仁の乱後の社会的な変動を通して理解させるとともに、元寇、日明貿易、琉球の国際的な役割など、その間の東アジア世界とのかかわりに気付かせる。
イ 農業などの諸産業が発達し、畿内を中心とした都市や農村に自治的な仕組みが生まれたことを理解させるとともに、武士や民衆の活力を背景にして生み出された新たな文化の特色について考えさせる。

3 単元の評価規準

ア 社会的事象への 関心・意欲・態度	イ 社会的な 思考・判断	ウ 資料活用の 技能・表現	エ 社会的事象に ついての知識・理解
中世の歴史的事象や人物の行為について、意欲的に考察しながら、その目的を明らかにしている。	中世の歴史的事象や人物の行為について、多面的・多角的に考察し、その目的を自分なりに推察している。	中世の歴史的事象や人物の行為に関する様々な資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果を適切にまとめたり、説明したりしている。	中世の歴史的事象を多面的・多角的に理解し、その知識を身に付けている。

4 単元の具体的な評価規準

ア 社会的事象への 関心・意欲・態度	イ 社会的な 思考・判断	ウ 資料活用の 技能・表現	エ 社会的事象に ついての知識・理解
①武士が台頭し武家政権が成立したこととその後の鎌倉幕府の政治、社会の展開に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 ②武士の生活や生き方に関心をもち、当時の様子を知る資料を進んで読もうとしている。 ③元寇、日明貿易、琉球の国際的役割などの学習を通して、東アジア世界とのつながりに関心をもっている。	①元寇の歴史的意義を理解し、鎌倉幕府の滅亡にどのように影響したかなどを、考察している。 ②畿内を中心とした都市や農村に自治的な仕組みが生まれたというこの時代の大きな変化の原因を農業をはじめとする諸産業の発達などの視点から考えている。 ③中世の日本の特色を、古代の日本と比較したり、政治・経済・文化・社会の様子から考察している。	①武家政権が成立し、その後の鎌倉幕府の政治、社会の展開に関して、史料「政子の演説」「御成敗式目」「永仁の徳政令」を読み取り、特色や幕府政治の変化を説明している。 ②地図「モンゴル帝国の拡大」からユーラシアという大きな世界が誕生したことを読み取り、歴史地図を活用している。 ③中世の日本の動きを政治・経済・文化・社会の様子などに分けて、分かりやすくまとめている。	①武家政権が誕生して、武士の支配が次第に全国に広まり、武家社会が発展していったという大きな時代の流れを説明している。 ②建武の新政から南北朝の動乱に至る経過や、動乱をもたらした武家社会の変化を理解している。 ③中世の文化の特色とその中に今日の日本文化に伝わるものがあることを具体例をあげて説明している。

5 指導計画・評価計画 (10時間)

時 間	学 習 活 動	ア 社会的 事象への 関心・意 欲・態度	イ 社会的 な思考・ 判断	ウ 資料活 用の技能 ・表現	エ 社会的 事象につ いての知 識・理解	評価に基づく手だて ○：発展的な指導 (A) △：補充的な指導 (C)
1	武士の勢力拡大や、平氏政権と院政、荘園のかかわりなどを理解し、年表にまとめる。				① シート 観察	△戦乱を年表にまとめさせ、それを基に、武士が勢力を広げていった過程を一緒に考える。
2	鎌倉幕府の成立～御恩と奉公～、承久の乱と執権政治の確立を理解する。	① 観察 発言		① 発言 シート		△「北条政子の訴え」について、将軍と御家人の関係の図を用いて、もう一度説明する。
3	鎌倉武士と農村生活を資料「地頭の横暴」・絵巻物を通して理解する。	② 発言 観察				△資料「地頭の横暴」について、もう一度説明し、地頭の荘園侵略を理解させる。
4	元の襲来と鎌倉幕府の滅亡をからめて理解する。		① 発言 ノート	② 観察		△一緒に資料を読み、元寇の意義、日本にもたらした影響を再度考えさせる。
5	建武の新政から南北朝の動乱に至る経過や、武家社会の変化を理解する。				② 発言 シート	△資料を基に、建武の新政から南北朝に至るまでの経過を年表にまとめるように働きかける。
6	室町幕府のしくみの概略をまとめ、外交について理解する。	③ 発言 観察			② 発言 シート	△組織図を見比べて、室町幕府と鎌倉幕府との共通点、相違点を考えさせる。
	畿内を中心に自治的な組		②			△下剋上などのことばの意味を、

7	織が生まれたことと戦国大名が登場した理由について、応仁の乱から考える。		発言 ノート		分かりやすく説明する。
8	鎌倉時代の仏教・文化の特色を理解する。			③ 観察 シート	△建築物・彫刻の写真を見て、鎌倉文化について気付いたことをあげさせる。
9	室町文化とその広がりを理解し、現代に受け継がれているものに関心をもつ。			③ 発言 シート	△現代に受け継がれている文化を一緒に探してみる。
10 本 時	中世の日本を振り返り、中世とはどんな時代であったかについて考える。 中世の日本を政治の展開(産業の発達、社会の様子、文化の特色)などに分けて、調べ、ワークシートに書き込む。 中世の時代の特色をまとめ、時代の再構築をする。		③ 発言 観察	③ 観察 シート	△ワークシート基礎コースを用意しておき、教科書を見ながら完成させるように、助言をする。  ○絵画史料「一遍上人絵伝」から中世の特色を読み取らせ、自分の言葉でまとめさせ、わかりやすく表現させる。

観察：生徒観察 発言：発言内容 ノート：ノート内容 シート：ワークシート

### 6 本時の学習活動と記録 (50分)

	学習内容	主な学習活動と形態	評価の観点・方法	資料・留意点	評価に基づく手だて ○：発展的な指導 △：補充的な指導
5 分	1. 今までの授業を思い出しながら、「中世」とはどんな時代といえるか考える。	一斉学習 ・ノートに簡単にどんな時代だったか書く。		・資料「古代の日本」を配布する。	△武士・農民の観点から考えるように助言をする。  ○「古代の日本」との比較を通して考えるように助言をする。
35 分	2. 「中世」とは、どんな時代かを深めるために、課題を選択し、資料「古代の日本」を参考にしながら、自分で「中世の日本」のワークシート1をつくりあげる。	個別学習 ・テーマを選び、調べ学習を行う。 ・調べたことをワークシート1にまとめる。	ウの③ 観察 ワークシート	・課題を与える。 ・ワークシート1を配布する。	△ワークシート1が難しく、意味が分からない生徒には、簡単な基礎ワークを用意しておく。 ○絵画史料「一遍上人絵伝」から中世の特色を読み取らせ、自分の言葉でまとめさせ、わかりやすく表現させる。
10 分	3. 授業のまとめ 「中世」の特色をまとめ、時代の再構築をする。	一斉学習 ・発展コースを選んだ生徒に、調べたことを発表してもらおう。 ・中世とは、どんな時代だったか、ワークシート2にまとめる。	イの③ 発言 観察 ワークシート	・ワークシート2を配布する。 ・ワークシート1, 2を集める。  ・未完成の場合は家庭学習とする。	○まとめたことを発表するに当たり、寸劇を取り入れたり、自分の意見を入れるなどの工夫をするように助言する。 △聞いた内容をワークシートに記入する。感想も書くように助言する。

#### \*課題

次の①から④の中から関心があることを一つ選び、ワークシート1にまとめなさい。

- ①武家政権の移り変わりを調べまとめなさい。
- ②中国と日本の関係を調べまとめなさい。
- ③現代に受け継がれている仏教や文化を調べまとめなさい。
- ④中世の産業の発展と民衆の成長を調べまとめなさい。・・・発展コース
- ⑤やり方がよくわからない・・・基礎ワークシート

(ワークシート2)

調べた結果、中世とはどんな時代であったか、自分なりにまとめなさい。

---



---



---



---

#### 1年社会 ワークシート1

選んだテーマ→

課題の中から関心があるものを一つ選び各自が自由にまとめなさい。

## 7 評価と具体的な手だて

### (1) 本時において発展コースの学習を勧めた生徒について

本時の発展コースについては、事前の学習相談をとおして5人の生徒に勧めた。対象とした基準は、1学期の評価の四つの観点でオールAであったことと、2学期の「中世の日本」の授業において特に関心が高く、学習活動において意欲的で、発言・ワークシート等でほとんどAだったことである。

単元の学習活動で生徒Yさんを「十分満足できる」状況(A)と判断した具体例 第6時【エの②】

「おおむね満足できる」状況(B)と判断する生徒の例

室町幕府と「鎌倉幕府」の違い、共通点を考えさせる場面で、執権と管領の違い、守護と地頭の地位の違い、六波羅探題・鎌倉府などをあげている。



Yさんを「十分満足できる」状況と判断した具体例

鎌倉幕府は、将軍と御家人が御恩と奉公という強い絆で結ばれていて、御家人は将軍から守護・地頭の役職を与えられ、忠誠を誓った。室町幕府は、将軍が絶対的ではなく、有力な守護との連合政権であった。

### (2) 本時の授業中における「努力を要する」状況(C)と判断した生徒への具体的な手だて

○【イの③】 「中世」とはどんな時代か考えられない生徒へ

**手だて** 発展コースの生徒の発表を聞いて、鎌倉時代の武士の生活やできごと、室町時代の民衆のようすなどを思い起こさせ、ワークシートに記入させる。

○【ウの③】 「中世」とはどんな時代かを、わかりやすくまとめられない生徒へ

**手だて** 教科書や今までの授業のノートを参考にして、ワークシートにまとめさせる。

### (3) 本時におけるワークシート2による評価例【イの③】とその後の指導

「おおむね満足できる」状況(B)については、評価規準を基に「中世の日本」について特色を二つは考察している場合に判断する。「十分満足できる」状況(A)と判断する視点は、特色を三つ以上考察でき、古代と比較したり、自分なりのことばでまとめ、高まりや深まりが見られた場合に判断する。「努力を要する」状況(C)は、特色を一つしか考察していない、又は、課題に関係のないことを書いている場合に判断する。

#### ■「十分満足できる」状況(A)と判断した生徒のまとめの具体例(質的な高まりや深まりがある。)

天皇や貴族よりも武士が中心となった戦いの時代。その中で、農民や民衆が団結して力をつけ、一揆など起こすようになった。農業、工業、商業が発展し、民衆が楽しむ文化も生まれた。

#### ■「おおむね満足できる」状況(B)と判断した生徒のまとめの具体例

武士が中心となって、政治を進めていた時代  
民衆が一揆など起こして、力をつけた時代

#### ■「努力を要する」状況(C)と判断した生徒のまとめの具体例とその後の手だて

中世は、能や狂言のことから明るい時代であったことがわかった。



その後の手だて

確かに能や狂言は楽しいもので、足利義満の頃は、幕府政治の最盛期で明るいと言えるが、中世の一部分しか見ていないので、そのことを伝え、その後の応仁の乱のことや、民衆の一揆のことを思い出させる。さらに文化以外の武士の政治や産業の発展、勘合貿易にもふれ、再度、考えを書かせる。

## 8 発展的な学習の指導を行うための教材開発例

「中世の産業の発展と民衆の成長」社会・経済発展コース  
～「一遍上人絵伝」を活用した発展的な学習～

絵画史料を見て、「絵画から分かること」「現在と違うところ、疑問に思ったこと」をワークシートに記入する。次に、「福岡の市」から読み取れることについて教師の補足説明を聞き、「今後調べてみたい学習課題」を各自で発見する。最後に、中世とはどんな時代であったかについて発表する。

絵画史料から気付くこととして「おおむね満足できる」状況（B）と判断する生徒の具体例

**絵画から分かること** ○市で布、下駄、米、魚、鳥を売っている。銭を使っている。○僧が殺されそうになっている。○市には様々な人が集まっている。○お面がある。○琵琶を弾いている人がいる。○壺がある。○馬借がいる。○船で荷を運んでいる。等

**現在と違うところ** ○米は、現在ビニール袋に入って売っているが、枡ではかって売られている。○現在は魚や鳥は切り身で売られることが多いが、そのまま売られている。○現在は靴を履いているが、裸足である。○現在の店は設備が整っているが、ほったて柱の簡素なものである。

**疑問に思ったこと** 僧がなぜ殺されそうになっているのか。等

「今後調べてみたい学習課題」として「十分満足できる」状況（A）と判断する生徒の具体例

**(場面)** ○市で下駄や布を売っている場面→宋銭を使った商売について、日宋貿易について 等

**(学習課題)** ○市で米・魚を売っている場面→農業の発達について

○僧が殺されそうな場面→一遍上人について

○市や様々な人が集まる場面→市に集まる人々や市について

○船や馬が描かれている場面→市と水陸交通の関係について

以上のような課題を自分の興味・関心に応じて発見できれば（A）である。最後に発展的な学習を行って、分かったこと、今後さらに調べてみたいこと、中世はどんな時代であったかなどをクラスみんなの前でグループ発表する。この発表の際、絵巻から聞こえてくる人々の声を簡単なスキットを取り入れるなど工夫して発表する。このとき、中世とは産業が発展し、民衆が成長した時代であったことをわかりやすく説明できた場合は（A）と判断できる。

↓ 「中世の産業の発展と民衆の成長」（社会・経済）発展コース  
～「一遍上人絵伝」を活用した発展的学習～ Yさんのワークシート

「中世の産業の発展と民衆の成長」（社会・経済）発展コース  
「一遍上人絵伝」を活用した発展的学習 ワークシート

1 絵巻からわかることできるだけ詳しく書き出してみよう。

・僧がいる・お米を売っている・川がながれている  
・急がっている・着物を売っている・市場のようになっている物も売っている・川の近くには車をひいていて、たくさん人が集まっている

2 疑問に思ったこと、疑問に思ったことできるだけ詳しく書き出してみよう。

・僧と武士のような人は何をしているのか  
・お米をばらばらにして、すりつぶして売っている、着物を着ている

3 発達の歴史・発展を調べて書き出そう。

4 短い時間でしたが、この絵巻を使った授業を通して、あなたがいかに調べたか、何を調べたか、（一つじゃなくてもいい）

・い、ばんが料、た、踊り急げにっいて  
・定期市にっいて  
・貿易にっいて

5 発展的学習をすることで、わかったこと、今後さらに調べてみたいこと、中世はどんな時代であったかなどをクラスのみんなの前でわかりやすく発表しよう。自分の発表で、みんなに入れるのわかんない。

1年社会 発展コース「中世の日本」のまとめ 2004年

組・氏名

1. 調べた結果、中世はどんな時代であったか、自分なりにまとめなさい。

農民・民衆が団結して力をつけ、農業・商業・工業を発展させ、地位を向上させた。また、貿易がさかんに行われ、外国を冒険するようになり、さまざまな文化が生まれた。この時代は民衆が自分で考え行動し、変化を伴い、歴史を変えようとした時代。

(注) 左がワークシート1、右がワークシート2

**[考察]**  
左のYさんのワークシート1を上述した観点で分析してみると、「絵画から分かること」については「僧がいる」「市で布、米、魚、を売っている」「川の近くで市が開かれている」「沢山の人が集まっている」などにしっかりと気付いている。また、「現在と違うところ、疑問に思ったこと」については「米は、枡ではかって売られている」「着物を着ている」「僧と武士が何をしているのか」「僧がなぜ殺されそうになっているのか」を、自らの力で気付くことができているので、「B」以上と判断できる。さらに、「今後調べてみたい学習課題」については、「一遍上人について」「定期市について」「当時の貿易について」が記されている。このことからYさんは、課題を自分の興味・関心に応じて発見できたと判断できるので「A」と考えられる。

最後の発表では、一遍上人が武士に殺されそうな場面の寸劇を当時の人物になりきって行い、みんなにわかりやすく発表できた。ワークシート2の内容からも、中世とは産業が発展し、民衆が成長した時代であったことをしっかりと理解していることが分かる。そこでYさんを「A」と判断した。

#### IV 研究のまとめと課題

- ・ 補充的な学習や発展的な学習は、一人一人の学習状況に応じた指導の充実を図るための学習であり、評価の観点に従い、日々、学習状況を適切に評価することが大切である。
- ・ 前時までの学習状況の評価を基に、具体的な個に応じた指導の手だてを想定し本時における指導に当たることは、教師の指導の幅を広げ、生徒に確かな学力を身に付けさせることにつながる。
- ・ 学習のねらいは、すべての生徒に基礎・基本を確実に身に付けさせることであり、そのための教材開発や指導方法の工夫・改善、個に応じた学習指導等に、一層努めなければならない。